

訪日外国人旅行者の受入に向けた第4回北海道ブロック連絡会（概要）

- 急増する訪日外国人旅行者を万全の体制で迎えるべく、北海道の受入環境の現状と課題を把握し、必要な手立てを迅速に講じるため、平成27年3月、経済団体・観光・交通関係者・行政機関が参集した「北海道ブロック連絡会」を設置。
- 平成28年度においては「明日の日本を支える観光ビジョン」の「2020年4000万人、8兆円」等の目標も踏まえ、平成27年度に取りまとめた各課題の解消に向けた継続的な取組等を実施。

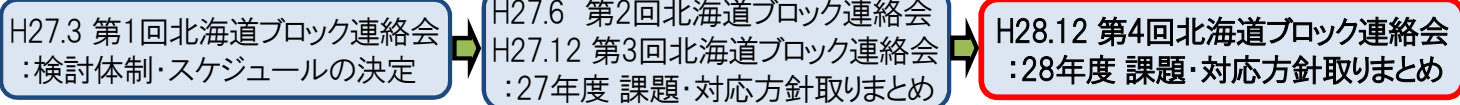
【取組状況・今後の対応方針（総括）】

- 宿泊施設、二次交通等の受入環境の課題解決について、地域の取組を後押しする新たな支援制度を積極的に活用した取組を展開
- 新たな推進体制の下、幅広い関係者と連携し、北海道全体での取組を促進

主な取組内容

- 【二次交通】外国人向けの都市間バス周遊パスの実証(バス協、バス事業者、運輸局)
- 【災害・緊急時】釧路市における電話医療通訳の実証導入(運輸局、釧路市)
- 【インフラ】英語による道路情報の提供（道路情報板、HP等）(開発局、北海道)
- 【空港機能充実】新千歳空港の国際線スポット増設(航空局、開発局)
- 国際線ターミナルビル機能向上(CIQ施設)(航空局)

<これまでの経過と今後の予定>



第4回連絡会における主な意見

- ・FIT化が進んでいく中で、個人が自由に周遊できる環境がなく、インバウンドの伸びに合わせて二次交通の議論が必要。
- ・耐震改修のために一時的に宿泊施設が減るときにどう対応するかを検討が必要。
- ・言葉の問題では、スタッフの育成には限界があり、通訳システムなどうまく活用。
- ・京都市のように、ターゲットに合わせた宿泊施設の整備・誘致が必要。適法な民泊も含めた戦略的な取組が必要。
- ・インアウト両方を含めた観光による交流という視点が大事。
- ・来道する方が安心して周遊できる受入環境を充実させ、地域で稼ぐ視点で取り組みたい。

H29以降の新たな推進体制：観光ビジョン推進北海道ブロック戦略会議（仮称）

- 北海道ブロック連絡会を発展的に改組し、受入環境整備のみならず観光ビジョンを推進する体制として設置。
- 平成29年4月以降の第1回会合開催に向け、検討事項や進め方を整理する。

<ブロック戦略会議のイメージ>

